

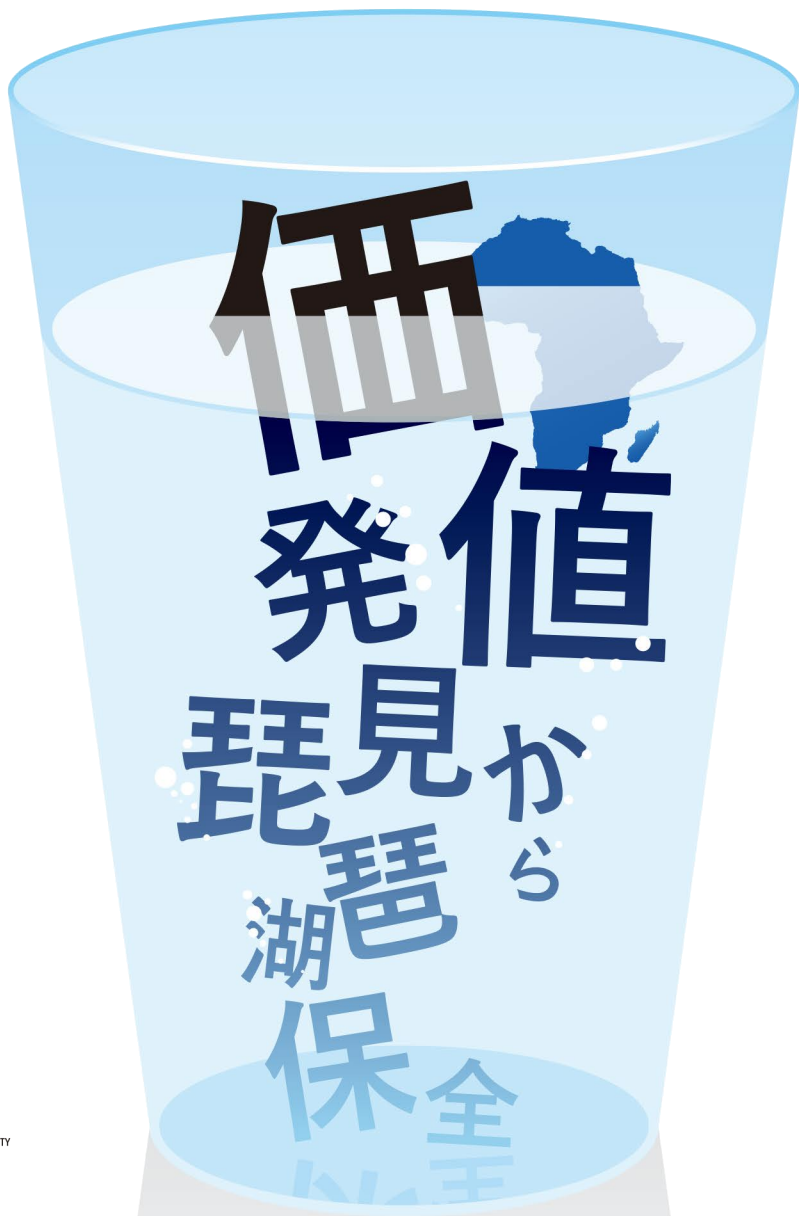
「アフリカでのコップ一杯の水の

価値発見から琵琶湖保全へ」

「学者40年・滋賀県知事8年の経験から伝えたいこと」



嘉田 由紀子氏
びわこ成蹊スポーツ大学学長
前滋賀県知事



2015年10月19日(月) 12:50~14:20

| 申込必要 | 参加費無料 | 会場:愛知県立大学 長久手キャンパス講堂 |

| 募集人数:500名(先着順) | 募集期間:10月12日(月)まで |

講演概要

蛇口をひねったら水が出る、お湯まで出る、という便利な生活に慣れ親しんでいる今の日本人の暮らし。しかし、地球規模で見ると、水道などにより安全な飲み水を手に入れない人口は10億人をこえています。また日本でも昭和30年代までは、水道のない暮らしは普通で、井戸水や湧水だけでなく、琵琶湖周辺では、湖水や川水などの自然水を直接に飲用していました。それでもアフリカやアジア地域と大きく異なる文化的仕組みがかくされており、公衆衛生的にみても病気になる、という「近い水」の暮らしが生きていました。その仕組みを紹介しながら、地球規模での水環境問題への解決・改善の道を考えていきたいと思います。

嘉田 由紀子氏プロフィール

1950年埼玉県生まれ、1973年京都大学農学部を卒業、1975年米ウイスコンシン大学修士課程修了、1981年京都大学大学院農学研究科博士課程を修了し、京都大学より農学博士(論文名『琵琶湖の水問題をめぐる生活環境史的研究』)を授与される。滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を歴任し、2006年7月2日の滋賀県知事選に当選して全国で5人目の女性知事となる。琵琶湖環境政策、子育て・女性参画、地域雇用・活性化、流域治水・卒原発政策などで新機軸を開き2014年7月、知事を勇退。現在、びわこ成蹊スポーツ大学の学長。著書に『いのちをこたわる政治をしよう!』(2013年、風媒社)、『知事は何ができるのかー「日本病」の治療は地域からー』(2012年、風媒社)、『生活環境主義でいこう!ー琵琶湖に恋した知事』(語り、2008年、岩波ジュニア文庫)、『水をめぐる人と自然ー日本と世界の現場からー』(2003年、有斐閣)、『環境社会学』(2002年、岩波書店)、『水辺ぐらしの環境学ー琵琶湖と世界の湖からー』(2001年、昭和堂)、『水辺遊びの生態学ー琵琶湖地域の三世代の語りからー』(2000年、農山漁村文化協会)、など多数。

申込方法 ※手話通訳をご希望の方は、事前にご連絡ください。
①往復ハガキまたはEメールに「郵便番号、氏名(ふりがな)、電話番号、嘉田由紀子講演会希望」をご記入の上、右記問合せ先住所へお送りください。
②本学地域連携センターウェブサイトへアクセス頂き、特設ページより所定の申込メールフォームに情報をご入力ください。
→ <http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>

お問い合わせおよび申込み先
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ岡1522-3
愛知県立大学 研究支援・地域連携課
電話番号:0561-76-8843(直通) Eメール:renkei@bur.aichi-pu.ac.jp

交通アクセス
●リニモ「藤が丘」駅から八草行き「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩約3分
●リニモ「八草」駅から藤が丘行き「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩約3分
※ 駐車スペースに限りがありますので、公共交通機関でご来場ください。

